

# 水稲育苗箱専用長期持続型殺菌殺虫剤

## ビルダー<sup>®</sup>フェルテラ<sup>®</sup> チェスGT<sup>®</sup> 粒剤

クロラントラニリプロール	0.75%
ピメトロジン	3.0%
チフルザミド	3.0%
プロベナゾール	10.0%
鉱物質微粉類	86.25%

農林水産省登録 第23849号  
(地域限定)

毒性 普通物 有効年限 3年 包装 1kg × 12袋

### ●特長

1. 育苗箱施用で、水稲初期・中期の主要病害虫であるいもち病、紋枯病、ウンカ類、コブノメイガ等を同時防除できます。
2. 育苗箱当たり50g施用で、長期間にわたって高い効果を示すので、省力的、経済的です。

### ●適用病害虫および使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50g	緑化期 ～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から 均一に散布する
	イネミズゾウムシ				
	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメイガ イネミズゾウムシ	高密度には種する場 合は1kg/10a(育苗 箱30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当たり50～100g)	移植3日前 ～移植当日		

クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ピメトロジンを含む農薬の総使用回数	チフルザミドを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
1回	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内 (育苗箱散布は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

(令和3年10月27日現在の登録内容)

## ●使用上の注意事項

- 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落としのち、十分灌水する。
- 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさける。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用する。
- 本剤処理後の苗を急激な乾燥が起こりやすい場所や温度変化が大きい場所で育苗した場合、薬害が生じるおそれがあるので、注意する。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意する。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態(湛水深3～5cm)を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意する。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用をさける。
- 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさける。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行う。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾糞として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整する。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。